

## (19) 教室活動の理念や活動していく上で大切にしていること(自由記述)

- ・本教室は、町内在住・在勤者を対象に開催する教室であり、学習者の日本語の読み書き・会話のレベル向上と、交流会等を通して国籍や世代を越えた交流を図ることを目的としている。
- ・1対1での学習をめざし、学習者のニーズに対応できるよう取り組んでいる。
- ・日本語を学習することで、日本での生活を豊かにして欲しい。学習者の学習熱意に応える。日本での生活を良い経験にして欲しい。
- ・高度な技量を持つ講師による専門的な教育を、無料で地域の学習者に提供できるようにしている。
- ・学習者のレベルやニーズに対応できるよう、少人数での学習体制としている。また支援者は日本語を教えるだけでなく、学習者と信頼関係を深め、日常生活全般の相談相手となるよう心がけている。
- ・学びたいことを学ぶ。
- ・勉強だけでなくその人の背景を知り、仲間として大切にしたい、助け合えるように。
- ・それぞれの希望に応じた学習を支援する。
- ・日本での生活の困りごとの相談支援や、仲間作りのお手伝い。
- ・学習に重きを置くだけではなく、生活の困りごとなどの支援を行っていく。
- ・地域在住の日本語を母語としない人々に、言葉の壁を取り除くための日本語学習支援および、心のサポートを行う”内なる国際交流団体”である。「心をつなぐ、言葉でつなぐ」をスローガンに、「共に生きる社会」を作ることをめざしている。
- ・学習者の滞在理由や学習目的は様々であるが、日本語を使っの“交流”を一番の目的としている。学習者にとって、日本語力の向上だけではなく、ボランティアとの対話を通して、信頼関係を築き、大切な居場所となっている。ボランティアも、学習者から様々なことを学ぶことができ、相互に平等な関係をめざしている。
- ・単なる学習でなく、学習者一人一人のニーズよりそった支援を心掛けている。
- ・学習者と学習支援者とのコミュニケーションを大切にしている。
- ・学習者の生い立ちやこれまでの経験を皆で共有し、学んでいくことを大切にしている。
- ・資格等のためではなく、日本での生活に役立てるための教室であり、日常会話でのシチュエーションの想定などを大切にしています。また、外国にルーツを持つ住民同士の繋がりを作ることを大切にしています。
- ・学習者に寄り添って生活全般を支援する事。
- ・学習者と支援者の信頼関係を築くため、今後とも1対1で学び合う方式を維持する。
- ・学習支援者は、日本語学習だけでなく受講者の生活面で困っていることなどに対しても親身に相談に乗るなど、受講者の心強い存在となっている。また、受講者同士が情報交換しやすいよう、楽しくおしゃべりする時間もつくり、教室に通いやすいような雰囲気づくりにも心掛けている。
- ・会話・対話を重視:学習者の日本語力に応じて入門・初級・初中級でクラスを編成し、クラス問わず、全体の約7割は学習者に話していただくよう取り組んでいる。
- ・日常生活にありふれたものを教材に:スーパーのチラシや館内のイベントチラシ、おもちゃのお金などを用いて、日常生活で活躍できる言葉を一緒に覚えていく。
- ・クラスの最後には全体交流を実施:学習者・支援者問わずみんなが参加して日本語にちなんだゲームを実施し、楽しい雰囲気づくりでコミュニケーションを図る。

- ・支援者は学習者に寄り添う姿勢:学習者には、できるだけやさしい日本語を心掛けお話しするように努め、またお互いの国の文化や価値観を理解し合いながら、楽しく気持ちよく学習できる雰囲気づくりを心掛けている。
- ・日本語学習支援を通じて日本の生活や文化に対する理解を深め交流する。
- ・本講座においては、日本語学習に対する意欲がある者であれば、出身地や居住地(市内外)を問わず広く受け入れる。受講者の日本語習熟度に応じて適切なグループ分けを行い、学習効果が最大限発揮されるよう努めている。グループ内において学習進度や実力に差が生じた場合には、状況に応じてグループの再編成を行うなど、柔軟な対応をする。日本語能力試験(JLPT)合格を目的とした試験対策型のクラスとはせず、あくまで日本語による円滑な日常会話の習得および、学習者同士の交流を重視した内容となるよう、学習支援者にも協力を要請している。今後も、学習者が安心して参加できる環境づくりを推進するとともに、日本語学習を通じた多文化共生の促進と地域交流の場の充実に努めていきたい。
- ・日本語の勉強だけではなく、生活面や仕事面などの悩みや困りごとにてできる限り寄り添えるよう、普段からコミュニケーションを大切にしている。
- ・どの国から来ても、誰でも、気持ちよく日本語を学ぶことができる日本語ボランティアグループであること。ボランティア精神と国際的な感覚を備えた学習支援者であること。学習者あつての学習支援者であるとの基本精神に基づき、それぞれの学習者の希望に沿った曜日・時間帯で、気持ちの通う授業が提供できるよう心がけている。
- ・市に在住・在勤の外国人の方々が日本での生活に困らないよう、実用的な日本語を学べる環境を提供すること。
- ・学習者と学習支援者は対等な立場である。
- ・学習者のプライバシーを大切にする。
- ・学習とともに「ほっとできる」場であることを大切にする。
- ・識字学級を通して、人とのつながりを築き社会参加を促す場としての役割を担っていくという理念を持って、識字学級を運営している。
- ・学習者と学習支援者のつながり、人間関係の構築を大切にしている。
- ・学習時間に対話活動を実施し、日本での生活が安心安全に暮らせるように交流を図っている。
- ・自尊感情を損なうことがないよう、寄り添い支援を大切に日本語支援を行っている。
- ・様々な国の文化や言語にふれる機会を設け、国際交流を進めている。
- ・識字教室を出発点としているので、日本語指導のサポートのみならず、さまざまなニーズに応えた学習を行っている。
- ・学習者さんにとっての居場所作り。
- ・市在住のおおむね55歳以上の中国帰国者1~2世およびその配偶者を対象に、週に1回能力に応じた日本語学習を行っている日本語教室です。基本的に日本語学習・日本語能力の向上に重きをおいていますが、加えて地域のボランティアさんたちを交えた会話練習や課外活動なども実施し、帰国者同士の親睦だけでなく、中国帰国者と地域の方たちとの相互理解を深めて、帰国者が孤立することなく地域に溶け込んで暮らせるようにとの思いを持って運営しています。
- ・学習者と支援者間のコミュニケーション、文化習慣を相互に理解する支援者となること。
- ・日本で生活する学習者を孤立させない。
- ・学習者同士で交流する。楽しい時間にする。
- ・教室に来たくても(仕事の都合で)来ることが出来ない学習者の気持ちを尊重できる活動を続けて行きたいと思っています。

- ・1対1で学習者のレベル、要望に合わせて学習しています。今年度からみんなタイム(15分間)を設け、学習者、ボランティアが順に一人ずつ発表することで交流を深めています(自分の国のこと、文化、食物など)。
- ・元気に活動できるバックアップを心がけています(高齢の方が多いため)。
- ・日本語のサポートだけでなく、少数者としてストレスの多い学習者のほっとする場所でありたい。学習者と学習支援者の交流を大切に、イベント等を実施していく。
- ・人と人との出会いと相互理解を深める場として日本語交流に取り組んでいる。外国人住民がことばの壁を乗り越え、生活での不安を少しでも軽減できるよう、ボランティアが日本語学習のサポートを通じ、様々な異文化を知るきっかけ作りの場となっている。日本語を教える、教わるという関係ではなく、地域で共に暮らす住民同士が支え合い、お互いに尊重を育む交流の場となるよう努めている。日本語学習だけでなく、習慣や慣習等、文化の話題を通して、気づきや理解を深めている。参加者同士が人とのつながりを育む場となるよう心がけ、外国人住民が自信をもって自分らしく生活していけるようボランティアと共に活動している。
- ・日本語が理解できないことによる不利益や事故等につながらないために運営しているということ。また、その上で教室に来なくても自律学習につなげられるよう意識している。
- ・学習者のやりたいこと、希望を大事にする。
- ・学習者の方が進めるプログラム(地域の伝統料理を作るなど)を数回取り入れる。
- ・学習者、学習支援者がお互いさまで、過ごすことを大切にしている。
- ・様々な国の人たちが参加する日本語教室なので、多文化理解を深めていくことを大切にしている。
- ・日本語初級レベルの学習者に対して日本語での生活がスムーズに送れる様に学習者に寄り添った支援を大切にしています。
- ・子どもたちにとっての第三の居場所となることを大切にしている。
- ・互いの文化を理解し、ボランティアは与えるのではなく学ぶ姿勢を大切に。
- ・外国ルーツの子どもにとって第三の居場所になるように、安心安全な場づくり。
- ・市内在住の外国人がにほんごを学ぶ場であること。また、彼らの居場所であること。ボランティアとして関わる者にとっては、外国人とのコミュニケーションを通して視野を広げる機会を得ること。年に2回、7月と12月に「お楽しみ会」を実施して、お互いの親睦・交流を深めること。
- ・識字学習に加え、人権啓発の歴史などについてテキストを通して学習している。
- ・学習者の生活を考えると仕事優先になり欠席が多くなるのもやむを得ないと考えています。出席したい時に来ることができる場所でありたいです。
- ・楽しく明るく活動する。
- ・目標①文字を取りもどし、新しい自分を見つけよう。②仲間づくりを進め、共に高めあおう。③国際識字年の意義を生かした識字運動を共に広げよう。
- ・卒業のない学び舎で思う存分学びを堪能してほしい。それが在日韓国・朝鮮人高齢者にとって一番の解放となると思います。
- ・文字を学ぶ機会を奪われた方々が、安心して学ぶことができる場所となるように心がけています。
- ・市民であるボランティアと外国人(学習者)との交流の場を提供し、文化・習慣・思考をこえた相互理解の居場所であることをめざしています。生活していく中で必要になる日本語のサポートをすることやお互いがいろいろな国の人と知りあうことで安心できる場になることを大切にしています。「やさしい日本語」を使って伝えられるように心がけています。

- ・文化の交流を通して支援者と学習者、学習者と学習者同士のつながりを深め、日本語を楽しく学べる場であることを大切にしている。
- ・楽しい教室。
- ・識字教室は単に学びの場であるだけでなく、市民の方が気軽に交流できる場としても重要である。また、人権教育に関わるイベントに積極的に作品を展示するなど、学習者や市民に人権教育に触れる機会づくりを行っている。
- ・当日本語教室に来る学習者の状況はさまざまです。来日後まもなくのため、ほとんど話せない学習者、長年日本に住んでいて、話すことには不自由はないが読み書きができない学習者、また反対に日本語能力試験N1、N2を取得し、次のステップをめざしている学習者もいます。それぞれの目標やニーズが異なる学習者に応じて、支援者と学習者ができるだけ1対1を基本に対応しています。クラス授業以外の行事としては年に1度の校外学習、また送別会や休み前の茶話会などを行い、支援者と学習者、学習者同士が交流を図るようにしています。
- ・学習者が遠慮なく分からないことや教えてほしいことを言える環境づくり。
- ・学習者と支援者には上下関係はなく、ともに学びあう立場である。
- ・学習者それぞれのニーズに合わせた学習の場の提供。
- ・日本語を教えることにとらわれ過ぎず、お互いに学び合うことを大切にしています。
- ・1995年に中国帰国者の日本語支援から始め、来るもの拒まずの基本で行ってきた。しかしここ数年、学習者・支援者ともに減少し今は学習者1人の状態になっている。当面この状態で続けるつもりであるが、もし支援者と学習者がセットで来室されるなら譲りたいと考えている。
- ・さまざまな国の人が楽しく過ごせる教室をめざしています。
- ・学習者が来て良かったと思える教室にすること。スタッフもボランティア活動を通じて、やりがい、生きがいを見つけていただきたい。
- ・教室では「ほっとできる教室」をモットーとしています。
- ・学習者により良い学びを提供するために、学習支援者間での連携を密にし、望んでいます。
- ・親元を離れて来日している学習生に対し、親代わりとなって見守るという気持ちをもつこと。日本語検定受検など学習生がそれぞれ必要としている学習内容にも対応すること。
- ・識字、外国籍または外国にルーツのある方が地域で生活していくために身につけるための日本語学習を進めている。学習者の居場所づくり。会話対話を重視。日本語レベルに応じて教材・教具の提供。
- ・日本語を学びたい人のために、ボランティアで日本語学習のお手伝いをしています。また、会員相互の下、研修に努め、共に学ぶボランティアの会をめざしています。  
活動の柱・①外国人への日本語学習支援とそのための支援者研修を実施する。  
②各種行事を開催し、学習者と支援者の交流と親睦を図る。
- ・外国につながる子どもたちへの日本語支援を主として活動していくうえで、子どもたちが毎週通いたくなるような居心地のよい、居場所づくりを大切にしています。学習支援者同士もお互いに高めあえるような雰囲気づくりを大切にしています。
- ・講師クラスではあるが、ペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ、学習者の発話量を増やすように努めている。
- ・学習者が自信をもって日本語2に参加できるようにと、目標を明確に設定している。
- ・日本語1からあがってきた学習者が、日本語2を経験して、自信をもって日本語3に参加できるように、目標を明確に設定している。
- ・学習者が自分自身のことばで、自分自身の物語を自分の日本語で語れるようになることを活動の到達点にしている。

- ・背景が異なる様々な学習者がいるため、一人ひとりのバックグラウンドを尊重できる活動をめざしている。
- ・学習支援者は日本語の先生ではなく、学習者と対等的な立場で日本語交流活動の実施を目標としている。
- ・1対1の活動ではあるが、最後に話を共有し合う場を設けており、活動内の横のつながりを大事にしている。
- ・外国出身の学習支援者が参加しており、地域で暮らす先輩としての「声」を大事にしている。
- ・背景が異なる様々な学習者がいるため、一人ひとりのバックグラウンドを尊重できる活動をめざしている。
- ・市の生活情報を満載しているテキストを用意しており、地域に密着した内容となっている。
- ・難しい漢字については、学習者が書けなくても見てわかるようになることを目標としている。
- ・国や年齢を越えたみんなで楽しめるゲーム(トランプが主)を、20分程度学習時間の最後に取り入れる。
- ・学習者が、同じ立場の友達同士の中で安心できる居場所にできるようにするとともに、語彙を広げ、学校生活において豊かな生活を送れるようにする。
- ・基礎的な日本語を教え、相互に国際理解を深めること。
- ・生活支援のための情報提供をすること。
- ・地域の方と交流すること。
- ・日本語のスキルだけでなく、日本の伝統、文化、マナー、等を知ることがを重視している。
- ・学習者のニーズに合わせて方針を決定すること。
- ・日本語サロンに来ることにより、日本語習得のみならず生活や文化、職業など様々な情報を交換して共有することができること。
- ・学びに来る在留外国人にとってホッと安心できる場所であること。
- ・漢字の読み書き、作文の学習など。
- ・時事問題を教材にした読み書きの学習。
- ・それぞれの生活や生き方をことばを媒介して学び合う。
- ・学習者の希望に沿って学習内容を決め学習者と学習支援者の一対一で行うが、学習支援者が不足していても、グループ学習へ移行し、極力学習希望者を断らない。
- ・学習者の希望に沿い、学習内容を決めている。
- ・学習者に合わせ、会話を楽しむ事に重きを置いている。
- ・なるべく新規学習者を受け入れられるよう学習支援者の体制を整えている。
- ・日本語での日常会話やよみかきに不自由されている在住外国人のための日本語講座として開催する。また日常での相談事や日本語学習を通じて、ボランティアや学習者同士と交流し、日本文化等に慣れ親しむ機会の場とする。
- ・「教える-教えられる」関係ではなく、同じ地域の住民同士が日本語を学んだり使うことを通じて交流し、顔の見える人間関係を作る。学習者、ボランティアにとって安心できる居場所を作る。
- ・単なる日本語学習機関でなく、国際交流活動を基本としている。

- ・支援者と学習者とのコミュニケーション。
- ・互いに、気持ちや考えを出し合いながらみんなで学ぶ機会を大切にしていきたいと思っています。
- ・自学自習の教材を用いて、自身が予習・復習すること。そして教室でボランティアと会話練習を行い、実際の生活の場面で使えるよう自信をつける場。
- ・子育て中の方や仕事後に日本語を学びたい方等対面の教室に通うことが難しい学習希望者に対して、日本語を学ぶ場を提供する。自学自習の教材を用いることで、学習者自身が生活の中で日本語学習を習慣化し、話す・聞く・読む・書く総合的な日本語力を身に付ける。
- ・親の事情で来日し、言葉や文化の違いから学校で孤立しがちな外国にルーツを持つ子どもたちに、安心できる居場所を提供する。子どもたち一人ひとり、困っていることが異なるので、個別に寄り添った支援を行う。
- ・日本語学習の場や機会の乏しいダイレクトの子どもたちを対象に、日本で生活する上で特に自分のことや、やりたいことについて相手に伝えるための日本語を提供する。
- ・学習者同士の交流と情報交換。日本語レベルに関わらず、教室参加を通して学習者自身のキャリアアップにつなげ、日本の企業内でのルールや文化を理解し、職場でのコミュニケーションに自信を持てるようになる。
- ・大阪に在住・在勤する外国人が、ほぼ毎日日本語を学習することによって必要最低限の日本語の早期の習得をめざし、安心安全に生活できるようになることを目的とする。また、学習を通して日本文化や習慣への理解を深め、周囲との円滑なコミュニケーションに寄与できるよう支援する。
- ・①基本的には来るものは拒まずで受け入れている(但し、最近では支援者の減少で新規参加者の対応に四苦八苦している)。②学習者の意向を尊重し、学習したい内容に沿った支援活動を行っている。③すべての学習者を平等に扱っている。
- ・楽しく、丁寧な活動 どの国の人とも仲良く。
- ・来て良かった、来週も参加したい!と、思える教室。ボランティアと学習者共に、そう思える時間でありたい。日本語を通し理解し合いながら、平和な世であってほしいと念じています。
- ・日本語学習だけでなく、学習者にとって家や職場、学校以外の居場所(サード・プレイス)になることをめざしている。そのため、テキスト学習以外にも交流を主目的とした活動も行っている。また、学習者が主体的に地域を担う存在であることを意識し、教室内でも学習者の自己決定を重視している。
- ・個人だけの学習ではなく、全体学習を大切にしている。人権学習や制作学習や遠足、料理活動などを通して、この識字が心を許して話せる場にしようとしている。
- ・在日外国人の中でも日本語の学習を主目的に参加してきている人や交流を目的に参加してきている人などそれぞれのニーズにあわせてきめ細やかな教室運営が求められています。日本語学習だけではなく、この地域の在日外国人が気軽に立ち寄れて、生活の相談や悩みやただ気軽に話をしに行ける場、いろいろな問題を抱えていることを話せる場としての教室の役割を重要視し、教室運営をしていくことが重要になってきています。
- ・みんなの和 学習支援者が無理なく楽しくできれば学習者も楽しい学習ができる。
- ・学習者が孤独を感じて、学習から遠ざからないようにするために、声掛けや様々なフォローを気にかけて、参加しやすく継続できるフレンドリーな環境を維持する。
- ・できる限り、学習者と学習支援者の一対一の学習形態を取り、双方満足度が向上する学習とする。
- ・学習の開始と終了の時間を順守して、ボランティアである学習支援者の方々が、仕事や家事をしながらでも継続できる環境作りを心がける。
- ・市識字施策推進指針、市識字・日本語教育基本方針を踏まえた「開催趣旨と活動方針」に基づいて活動している。具体的には、学習者も学習支援者も、学習者どうしも、交流を深め、ともに学び合うことを大切に教室づくりをめざしている。

- ・学習する者、支援する者という立場より、お互いに学び合い、高め合っていく活動をめざしている。
- ・学習者一人ひとりが元気に安心して通える教室であること。識字学習者、日本語学習者、学習支援者が互いに尊重・理解し、1つの教室の仲間として助け合い楽しく学び合える場であること。教室開設当時より続いている文集づくりを続けていくこと。
- ・学習者自身は勿論のこと、家族の生活環境が過ごしやすいものとなるよう日々努力を重ねている外国人の方々への学びの場であり、情報交換の場となるように、多国籍な交流の場を作りたいと考えています。
- ・ただ学習を支援するだけでなく、地域外国人住民の居場所づくりになるように活動をしていきたい。
- ・学習者の居場所になること。学習者が来たいと思える場所になり、来たいと思ったらいつでも来れる場所になること。学習者にとって、支援者にとって楽しい場所になること。
- ・1人ひとりが「その人らしくいきいき生きられるよう、ともに学び合う」ことをモットーに自分の得意なことをほかの人に教えてもらっています。折り紙を外国人に教える地域の人、スマホの使い方を高齢者に教えてくれる外国人、それぞれが教えています。
- ・日本語検定試験などの受験勉強の応援はしない。おしゃべりを中心に学習者が中心になる活動を大切にしている。教室のことはみんなで相談してすすめる。
- ・教室では年3回（夏休み前、冬休み前、春休み前）に交流会を行い、ボランティアと学習者との交流を行い、日頃話さない事など、楽しく過ごしています（お茶、お菓子、ゲームなど）。
- ・支援者、学習者が文化交流、コミュニケーションを密に取り日本での生活を応援していきたい。
- ・誰もが人間として尊重され誰もがいきいきと暮らし誰もが楽しく学ぶ。
- ・来る人はすべて受け入れる。
- ・みんなで助け合って知恵を出し合い運営していく。
- ・日常生活上、職業生活上または社会生活上の支援につなげる日本語学習をする。
- ・日本語能力検定試験は、日本語学習の目安として受けることも OK です。
- ・教えられない時もありますので無理はしません。
- ・学習者、学習パートナーが共に楽しく活動に参加できる。その上でしっかり学習できること。
- ・みんなが仲良く楽しく学習すること。
- ・公平性（全員に発言の機会を設ける）。
- ・互いの文化の尊重。
- ・学習者同士の協力・協調を支援。
- ・いつでも、だれでも、どこでも日本語に困っている人が学習する機会を提供する事。
- ・誰もが楽しく教室活動に参加できるようにお互いの人権を大切にすること。
- ・お互いに学びあう関係を大切にしたい。
- ・識字から日常における生活（日常）の会話、検定試験へのアドバイス等レベルはまちまちですが、幅広く対応できることを願っている。
- ・「教える」のではなく、同じ地域住民として一緒に考える。
- ・学習者の発言を促す。
- ・人権の尊重。

- ・教室参加者が自分につながる文化や体験を出し合って、そこから人権の視点を切り口に社会にある課題を見つけ発信できる教室をめざす。また、部落差別やジェンダーに関する問題などの学習をすすめる。今いる教室参加者だけでなく、居場所を必要としている誰もが安心して学べる教室づくりをすすめる。
- ・「ボランティアと学習者が一緒に学び、一緒に考え、一緒に作る教室」との理念のもと、対等な関係で教室活動を豊かにしていく。ボランティアだけで決めず、常に学習者の声を聞き、理念に沿った活動を展開する。ボランティアだけで決めず、常に学習者の声を聞き、理念に沿った活動を展開する。